



東大和市立郷土博物館 企画展示

開催期間 令和7年3月20日(祝)
～5月11日(日)

会場 郷土博物館企画展示室

東大和市立郷土博物館で03月20日～05月11日の間、企画展示として表題の「凧たこあがれ!」が開催中です。この催しは東大和市の野澤茂さん(1927年3月～2000年12月)の紹介とともに様々な凧を展示しております。野澤茂さんは公立小学校の教員を務める傍ら、郷土史の研究を続けられた方です。

青少年対策第二地区および第八地区委員会では共同し、本年度で48年間凧作り／凧あげ大会を継続して実施しておりますが、青少年の健全育成の為に、今後とも継続して実施して行きたいと思っております。以下展示状況を報告致します。

東大和市立郷土博物館



会場入り口

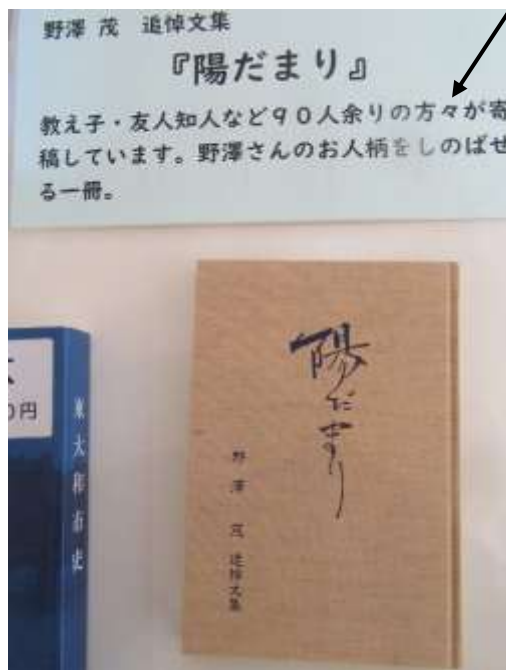
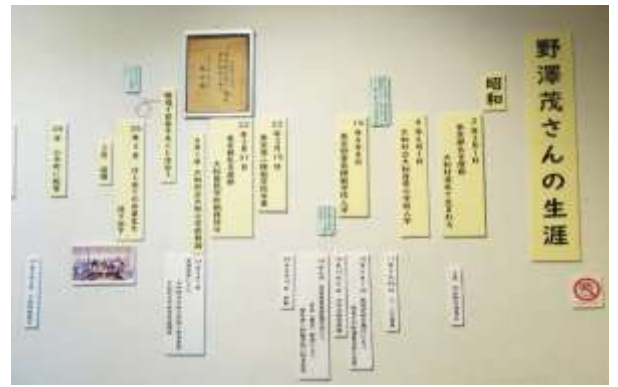


野 ざわ しげる 澤茂さんは元東大和市立第四小学校校長で、その教員歴は40年に及びました。

郷土史研究家としての側面を持ち、凧の愛好家でもあり、私設の展示室を公開していました。

野澤茂さんは、家族を、子どもを、たこ作りを、武者絵を、マージャンを愛した方でした。

野澤さんの生涯を、数々の凧と、著作、写真などをおして紹介します。



野澤先生の解説 その1




紙とトビ

紙は中国から日本に伝わったと考えられます。平安期の辞書「和名抄」に「紙老鷹」「紙鷹」とあるのが「紙」の記録とされています。

紙も鷹も、トビ（トビ）のことです。トビは英名でロビン（Robin）とも呼ばれます。紙もトビも大空を舞うようすが似ています。

日本では、良質な紙と竹が入手しやすく、各地に多種多様な紙が生まれました。



紙に願いを

人類はいつの時代も、大空に憧れを抱いてきました。空高くあがる紙に、精霊が宿るといふ信仰を持つ風習が各地にありました。

江戸時代には、正月・二月初午、四月八日の花祭り、五月五日の端午の節句、お盆などに、紙をあげました。端午の節句の紙あげは、男の子の初節句を祝い、空に高くあがる紙にその子の成長を願う意味があります。

また、豊作や厄除け、健康増進を祈ってあげるほか、現在ではレクリエーション、スポーツとしての紙あげが主流になっています。

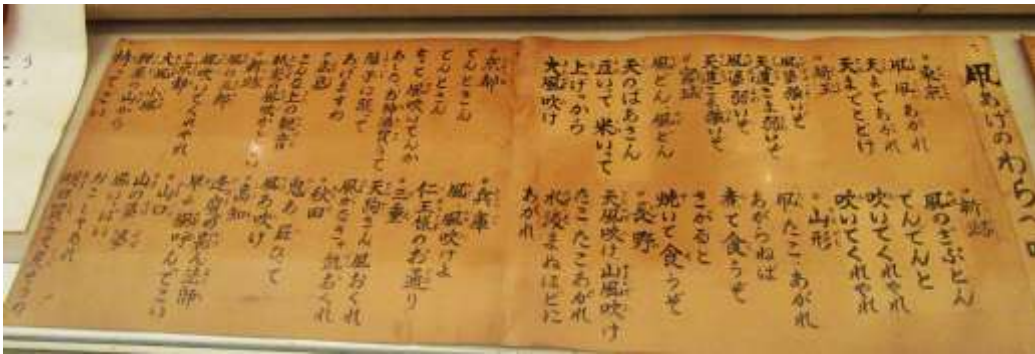


えぞ紙
(北海道 函館)

寛政元年松前藩で根室と国後には反乱がおきたとき、藩政に協力したアイヌ人の酋長を紙にしたものです。



野澤先生の解説 その2





空の家山子
江戸時代、六郷(多摩川河口近くの地域、
現在の八田区)には通船が多く住んでいま
した。
魚や貝を干しておくとかラスなど鳥に粗
われるので、トビの姿をしたトビ版を
あげ、空の家山子としたと言われたそうで
す。



嵐は「イカ」だった

嵐は、「イカ」「イカノボリ」と呼ばれていました。江戸時代初期に「イカノボリ」「鳥賊」と呼び、関東では「章魚」と呼んだそうです（和漢三才図説「一七二一年」）。

近年でも、青森県下北地方で「タコバタ」、東北地方東部で「ハタ」「テンバタ」、新潟県から北陸・近畿・中国東部・四国瀬戸内沿岸で「イカ」「イカノボリ」、中国地方西部で「ヨーズ」、九州北部で「タコバタ」「タカバタ」「ハタ」「タツ」など、長崎県北部・平戸・五島列島や奄美で「ヨーチユ」「ヨーチヨ」、沖縄県宮古島で「カビトウズ」、八重山諸島で「ビキタマ」と呼び、それ以外の地方で「タコ」と呼んでいます。

野澤先生の解説 その3

日本各地の嵐の呼び名

はだこ 青森（半地方）
てんぼた 宮城（仙台地方）
い か 徳島（阿波）
た こ 東京（関東）
とんび 千葉（九十九里浜）
た か 群馬・長野
まきい が 新潟（三条見附）
い か ぼり 大阪・京都
ようす 山口・広島
ハ タ 長崎
ようちう 長崎（志岐平戸）
バラモン 長崎（五島列島）

野澤先生の解説 その4

大社祝嵐について

出雲の国では十月を神有月といひます。
その日は全国の神社が慶まるかつてす。
その出雲大社のわきに、鶴山と北鳥安の神宮を交代して社事を務めてきました。
この両宮に慶事があると、鶴と鳥の嵐とあけてよろこびをあらわしました。
その嵐が誕生、結婚等のお祝ひ嵐として全国に広まりました。
一石のおと祝儀結び嵐ともいひます。



嵐で証明 雷は電気だ

フランクリン（アメリカ 一七〇六—一七九〇年）は嵐を利用して、稲妻が電気であることをつきとめました。雷が鳴っているときに嵐を飛ばし、嵐の糸に金属製の力ギをとおしたところ帯電することから、雷が電気であることがわかったのです。フランクリンは避雷針を発明したことも知られています。

ごあいさつ

「子どもが健やかに育ちますように」「今年も豊作になりますように」…。人びとは、昔から空高くあがる凧に、さまざまな願いを託してきました。現在では、レクリエーションとして、地域の行事として、世界中で凧あげが楽しまれています。

東大和市清水の野澤茂さん（1927年3月～2000年12月）は、公立小学校の教員を務める傍ら、郷土史の研究を続けられた方です。

今回の展示では、野澤茂さんの紹介とともに様々な凧を展示します。民俗資料をとおして、地域への興味・関心を高めていただけたら幸いです。

2025年3月 東大和市立郷土博物館

東大和市立郷土博物館 企画展示

たこ 巾 たこ あがれ!

開催期間 令和7年3月20日(祝)
~ 5月11日(日)

時間 午前9時~午後5時

休館日 毎週月曜日(5月5日は開館)
及び祝日の翌日(3月21日、4月30日、5月7日)

会場 郷土博物館企画展示室

住所: 東京都東大和市奈良橋1-260-2
Tel: 042-567-4800

「子どもが健やかに育ちますように」「今年も豊作になりますように」・・・人々は昔から空高く上がる凧に、さまざまな願いを託してきました。現在では、レクリエーションとして、地域の行事として、世界中で凧あげが楽しまれています。

東大和市清水の野澤 茂のざわ しげる（1927年3月～2000年12月）さんは、公立小学校の教員を務めるかたわら、郷土史の研究を続けられた方です。

今回の展示では野澤さんの紹介とともに様々な凧を展示します。民俗資料をとおして、地域への興味関心を高めていただけたら幸いです。



全卒業生に記念の凧作り（昭和62年）
野澤茂追悼文集『陽だまり』より



子どもたちに凧作りの勉強会
野澤茂追悼文集『陽だまり』より



東大和市の戦没者の記録『鎮魂』を出版した際の新聞記事

野澤 茂さんは元東大和市立第四小学校校長で、その教員歴は40年に及びました。

郷土史研究者としての側面を持ち、凧の愛好家でもあり、私設の展示室を公開していました。

野澤茂さんは、家族を、子どもを、たこ作りを、武者絵を、マージャンを受した方でした。

野澤さんの生涯を、数々の凧と、著作、写真などをとおして紹介します。



交通案内

- 西武拝島線東大和市駅より
 - ・イオンモール行（西武バス）で「八幡神社」または青梅車庫行（都営バス）「八幡神社前」下車徒歩2分
 - ・東村山駅西口行（西武バス）で「奈良橋」下車徒歩7分
 - ちよこバス（市内循環バス）「郷土博物館入口」下車徒歩2分
 - ・多摩モノレール上北台駅より外回り乗車
 - ・西武多摩湖線武蔵大和駅より内回り乗車
- ※本数が少ないのでご注意ください。

東大和市立郷土博物館

住所：東京都東大和市奈良橋 1-260-2
Tel：042-567-4800

